

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	リトルジェム		
○保護者評価実施期間	2026年 2月 9日		～ 2026年 2月 27日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	26名(23世帯)	(回答者数) 23枚(26名分)
○従業者評価実施期間	2026年 2月 9日		～ 2026年 2月 27日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7名	(回答者数) 7名
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 3月 15日		

## ○分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	保護者との信頼関係が強く、相談・説明・共感的支援が充実している	<ul style="list-style-type: none"> <li>・HUG・面談・電話等を活用し、日常的かつ迅速な情報共有を行っている</li> <li>・保護者の不安や悩みに対して、傾聴と共感を重視した対応を行っている</li> <li>・支援計画説明時に、子育てに関する具体的な助言を行っている</li> <li>・保護者会や交流会(おしゃべり会等)を実施し、保護者同士のつながりを支援している</li> <li>・いつでも相談できる体制を整え、安心感のある関係づくりを意識している</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者向けミニ講座・ペアトレの定期開催(テーマ型)</li> <li>・子どもの成長レポートの強化(写真+コメント+変化)</li> <li>・家庭でできる支援の具体ツール提供(プリント・動画等)</li> <li>・相談内容の傾向分析→事業所としての支援強化</li> <li>・卒業後フォロー(就学後の相談窓口づくり)</li> </ul>
2	職員間の連携・情報共有が良好で、チーム支援が機能している	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎日の朝礼で支援内容・役割分担を確認し、共通理解を図っている</li> <li>・職員同士が意見を出しやすい雰囲気づくりを意識し、風通しの良い組織づくりを行っている</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・役割の明確化(リーダー・サブ・記録等の仕組み化)</li> <li>・ケース共有のフォーマット統一(属人化防止)</li> <li>・職員スキル見える化(得意分野・育成計画)</li> <li>・内部研修の体系化(新人～中堅～リーダー)</li> <li>・他事業所との交流・見学(外の視点を取り入れる)</li> </ul>
3	活動プログラムの柔軟性・子ども主体の支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもの興味・発達段階に応じて活動内容を調整している</li> <li>・季節・イベント・キャラクター等を取り入れた活動設定</li> <li>・活動を固定化せず、その日の様子に応じて柔軟に変更</li> <li>・職員間でアイデアを出し合い、活動を企画</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・活動プログラムのデータベース化(事例蓄積)</li> <li>・発達段階別・目的別のプログラム体系化</li> <li>・子どもの反応・成果の記録→次回活動へ反映</li> <li>・保護者への「活動のねらい」の発信強化</li> </ul>

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	第三者評価等の外部視点による評価が未実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日常業務が優先され、外部評価の機会を設けられていない</li> <li>・内部評価で一定の満足度が得られているため優先度が低くなっている</li> <li>・外部評価の具体的な方法や導入手順が明確でない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・外部研修・事業所見学・第三者評価の計画的導入</li> <li>・専門職(ST・OT・心理士等)からの助言機会の確保</li> <li>・他事業所との情報交換や合同研修の実施</li> <li>・外部視点を取り入れるための年間計画の策定</li> </ul>
2	個人情報管理(写真撮影)や事故報告において一部改善余地あり	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個人スマートフォン使用など、運用ルールが曖昧な部分がある</li> <li>・安全管理は実施しているが、ルールの統一・徹底が不十分</li> <li>・事故報告の基準や共有方法にばらつきがある</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個人情報管理(写真・データ)の明確なルール化と周知徹底</li> <li>・事業所用端末への統一(可能であれば)</li> <li>・事故・ヒヤリハット報告のフォーマット統一と即時共有の徹底</li> <li>・定期的なリスクマネジメント研修の実施</li> <li>・保護者への説明・報告フローの明確化</li> </ul>
3	支援の質は高いが「見える化・言語化」が十分でない	<ul style="list-style-type: none"> <li>・良い支援が“感覚的・経験的”に行われている</li> <li>・支援の成果や変化を数値・資料として示す機会が少ない</li> <li>・保護者には伝わっているが、外部(新規・行政・採用)には伝わりにくい</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・成長の見える化(グラフ・チェックシート・比較資料)</li> <li>・支援の流れをフォーマット化</li> <li>・「リトルジェムの支援とは？」を言語化(理念→実践)</li> </ul>